

2017年3月期 第3四半期 決算説明資料

- 
- 1) 決算概要
 - 2) 決算のポイント
 - 3) 商品群別売上高
 - 4) 国内売上高
 - 5) 海外売上高
 - 6) 減価償却費と研究開発費
 - 7) 通期業績見通し
 - 8) 通期業績見通し 修正のポイント
[参考]商品群別売上高見通し

日本光電工業株式会社

銘柄コード:6849

2017年2月1日

1) 決算概要

(単位:百万円、単位未満切捨て)

	2016/3 第3四半期 累計	2017/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
売上高	111,654	110,619	△ 0.9
国内売上高	81,094	83,011	2.4
海外売上高	30,560	27,607	△ 9.7
営業利益	7,247	5,302	△ 26.8
経常利益	7,588	6,046	△ 20.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,650	3,825	△ 17.8

平均レート	(2015/12)	(2016/12)
1ドル	121.6円	107.4円
1ユーロ	133.9円	118.6円

為替影響除く: +3%		
粗利率:	2016/3 Q3 48.8%	2017/3 Q3 → 48.5%
販管費率:	42.3%	→ 43.7%
為替差損益:	2016/3 Q3 差損1.4億円	2017/3 Q3 → 差益2.5億円

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

1

- 売上高は0.9%減の1,106億円となりました。
- 国内は、市場別の取り組みが奏功し、消耗品・保守サービス事業も好調に推移したことから、2.4%増の830億円となりました。
- 海外は、円高の影響により、全ての地域、全ての商品群で減収となり、9.7%減の276億円となりました。現地通貨ベースでは、3%増加しました。
- 粗利率は円高の影響により低下しました。富岡工場の生産性は引き続き向上しています。販売管理費は人員の増強や研究開発投資により増加し、営業利益は53億円となりました。経常利益は為替差損益が差益に転じ60億円、純利益は38億円となりました。

2) 決算のポイント

売上高：前年同期比 0.9%減

- ・国内：急性期病院、中小病院、診療所といった市場別の取り組みを強化するとともに、消耗品・保守サービス事業の拡大に注力し、増収。
- ・海外：円高により全ての地域、全ての商品群で減収。現地通貨ベースでは、米国、アジアを中心に前年同期を上回る。

営業利益：前年同期比 26.8%減

- ・減収に加え、業容拡大に向けた人員の増強や研究開発投資により、販管費が増加。

経常利益：前年同期比 20.3%減

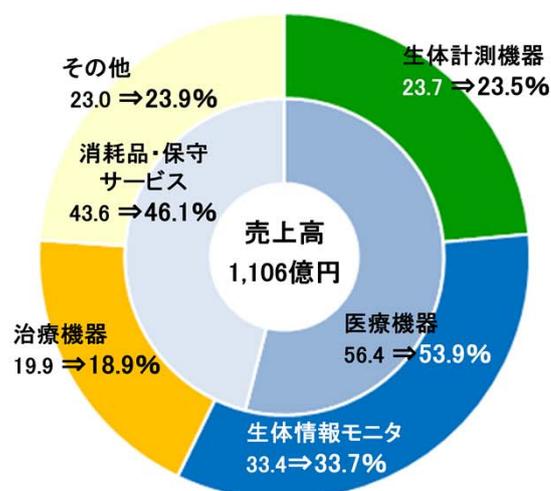
- ・為替差損益が差益に転じる。

3) 商品群別売上高

(単位:百万円)

	2016/3 第3四半期 累計	2017/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
生体計測機器	26,450	26,006	△ 1.7
生体情報モニタ	37,271	37,232	△ 0.1
治療機器	22,164	20,948	△ 5.5
その他	25,768	26,431	2.6
売上高合計	111,654	110,619	△ 0.9
(ご参考)			
消耗品・保守サービス	48,683	50,956	4.7

商品群別売上構成比
(2015/12 ⇒ 2016/12)



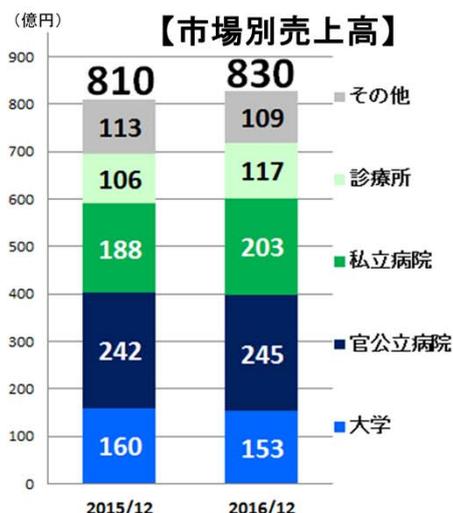
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

3

- 生体計測機器は1.7%減の260億円、生体情報モニタは前期並みの372億円、治療機器は5.5%減の209億円、その他は2.6%増の264億円となりました。
- 医療機器と消耗品・保守サービスの割合では、国内外での消耗品事業の強化を受け、消耗品・保守サービスの割合が46.1%へ増加し、安定収益につながっています。

4) 国内売上高

【市場別売上高】



【商品群別売上高】

(単位: 百万円)

	2016/3 第3四半期 累計	2017/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
生体計測機器	20,002	20,335	1.7
生体情報モニタ	23,437	24,448	4.3
治療機器	15,601	15,153	△ 2.9
その他	22,052	23,074	4.6
売上高合計	81,094	83,011	2.4

【市場別】 私立病院、診療所市場が好調、官公立病院市場も前年同期を上回る。大学市場は前年同期を下回る。

【商品群別】 生体計測機器：心臓カテーテル検査装置群が好調に推移。脳神経系群、心電計群、診断情報システムは前年同期を下回る。

生体情報モニタ：医療機関の機能分化・強化に伴う需要に加え、センサ類等の消耗品が増加。

治療機器：人工呼吸器、ペースメーカー・ICDは好調に推移するも、除細動器、AEDが低調。

その他：検体検査装置が前年同期を上回る。

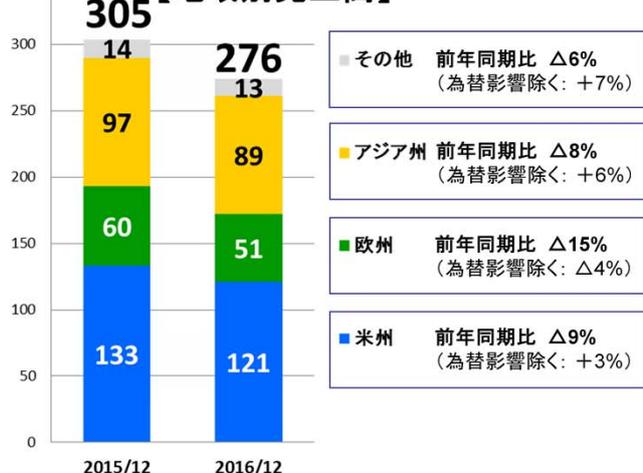
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

4

- 国内売上高は20億円増の830億円となりました。
- 営業組織体制を再編し、急性期病院、中小病院、診療所といった市場別の取り組みを強化するとともに、消耗品・保守サービス事業の拡大に注力した結果、売上を伸ばすことが出来ました。
- 私立病院、診療所市場が好調に推移し、官公立病院市場も売上を伸ばすことが出来ました。大学市場は、下期に入って予算執行の抑制や延期が見られ、減収となりました。
- 生体計測機器では、心電計群、診断情報システム、脳神経系群は前期を下回りましたが、心臓カテーテル検査装置群が好調に推移しました。
- 生体情報モニタでは、私立病院、官公立病院を中心に、医用テレメータ、送信機が好調だったほか、センサ類など消耗品も売上が増加しました。
- 治療機器では、人工呼吸器、ペースメーカー・ICDは好調でしたが、AEDが更新需要の鈍化により低調に推移しました。AEDについては需要回復が弱く、通期計画を44,000台に変更しました。
- 国内の市場環境は、私立病院、診療所が引き続き好調に推移しています。大学、官公立病院では、下期に入って予算執行の動きが遅い印象でしたが、1月から漸く動き始めており、期末に向けて営業活動に注力してまいります。

5) 海外売上高

【地域別売上高】



【海外売上高比率】

2016/3 第3四半期累計	2017/3 第3四半期累計
27.4%	25.0%

【商品群別売上高】

	2016/3 第3四半期 累計	2017/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
生体計測機器	6,447	5,671	△ 12.0
生体情報モニタ	13,834	12,784	△ 7.6
治療機器	6,562	5,794	△ 11.7
その他	3,715	3,357	△ 9.6
売上高合計	30,560	27,607	△ 9.7

← 為替影響除く: +3%

- 【地域別】 米州：米国は現地通貨ベースでは前年同期を上回る。中南米が商流変更等により減収。
 欧州：第3四半期に入って受注は回復傾向にあるも、ドイツが低調に推移。
 アジア州：中近東は原油安の影響により低調に推移するも、東南アジア、インドが好調に推移。
- 【商品群別】 生体計測機器：脳神経系群、心電計群ともに、全ての地域で前年同期を下回る。
 生体情報モニタ：米州、欧州、アジア州で前年同期を下回る。その他地域では好調に推移。
 治療機器：除細動器が全ての地域で低調に推移。AEDは欧州、アジア州で好調に推移するも、米州が低調。
 その他：血球計数器がアジア州で低調。

- 海外売上高は29億円減の276億円、海外売上高比率は25%となりました。現地通貨ベースでは、3%増加しました。
- 米州では、米国は現地通貨ベースでは脳神経系群、生体情報モニタを中心に好調に推移したものの、AEDの出荷の遅れにより、社内計画を下回る伸びにとどまりました。AEDは、デフィブテックが2016年秋から自社生産を開始し、当初は出荷に遅れが生じましたが、現在は解消しています。中南米は、販売組織再編に伴う商流変更の影響により、前期を下回りました。受注は好調に推移しており、第3四半期に入って増収に転じています。なお、メキシコ、ブラジルは12月決算であり、ほぼ計画どおりの進捗ですが、ブラジルについては現地通関の遅れなどにより下回る可能性があります。
- 欧州では、第3四半期に入って受注は回復傾向にあるものの、主要国のドイツが低調に推移しました。
- アジア州では、原油安の影響でサウジアラビア、UAEといった産油国は低調でしたが、東南アジア、インドが好調に推移しました。中国も現地通貨ベースでは前期を上回りました。なお、中国は12月決算であり、通期は円ベースで二桁の減収、現地通貨ベースで一桁半ばの増収の見通しです。

6) 減価償却費と研究開発費

(単位:百万円)

	2016/3	2017/3	増減額	2016/3	2017/3 予想	
	第3四半期 累計	第3四半期 累計		実績	期初	11月4日 修正
減価償却費	2,503	2,461	△ 42	3,459	4,000	3,400
研究開発費	4,058	4,474	415	5,910	7,300	6,500

●2017/3期計画における主な案件

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、富岡第二工場改修工事、本社(西落合事業所)改修工事

所沢 総合技術開発センターの建設 { 完成・移転:2016年10月
設備投資額:72億円 < 2016/3:34億円
2017/3:38億円

朝霞 事業所の建設(免疫試薬部門の移転) { 完成・移転:2016年12月
設備投資額:約11億円 < 2016/3:2億円
2017/3:9億円



- 減価償却費は4千万円減の24億円、研究開発費は4億円増の44億円となりました。
- 減価償却費、研究開発費ともに、通期は計画どおりを見込んでいます。

7) 通期業績見通し

(単位: 億円)

	2016/3 実績	2017/3 予想				対前期 増減率 (%)
		期初	11月4日 修正 ①	2月1日 修正 ②※	予想差 (②-①)	
売上高	1,655	1,750	1,705	1,680	△ 25	1.5
国内売上高	1,219	1,270	1,263	1,240	△ 23	1.6
海外売上高	435	480	442	440	△ 2	1.1
営業利益	164	175	170	155	△ 15	△ 5.7
経常利益	161	175	160	160	—	△ 0.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	105	115	107	103	△ 4	△ 2.1
海外売上高比率	26.3%	27.4%	25.9%	26.2%		
平均レート						
1ドル	120.1円	109円	104円	109円		
1ユーロ	132.4円	123円	116円	119円		

為替影響除く: +12%

【地域別海外売上高】

	2016/3 実績	2017/3 予想			対前期 増減率 (%)
		期初	11月4日 修正	2月1日 修正	
米州	194	213	199	204	4.9
欧州	80	87	77	74	△ 8.5
アジア州	138	157	142	136	△ 2.0
その他	21	23	24	26	22.9

※第4四半期の前提為替レートは112円/米ドル、122円/ユーロです。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

7

- 第3四半期の実績および最近の業績動向を踏まえ、通期の業績予想を修正しました。全体の売上高は前回予想を25億円下回る、1,680億円に修正しています。
- 国内では、大学、官公立病院市場において期末の大口商談が前期よりも少なく、予算の抑制・延期の動きが見られることから、1,240億円に見直しました。私立病院、診療所市場は好調を維持すると見ており、消耗品・保守サービス事業も引き続き拡大を目指します。
- 海外売上高は440億円、現地通貨ベースで12%の増収に見直しています。
- 米州は概ね計画どおりを見込んでいます。米国では受注は好調に推移しているため、通期は計画どおり現地通貨ベースで二桁成長を見込んでいます。現地の販売・サービス網を強化するとともに、新製品の投入により生体情報モニタのラインアップが拡充しており、著名病院での商談が増えています。中南米も、ほぼ計画どおりを見込んでいます。
- 欧州はドイツの販売回復が弱いこと、アジア州は韓国、インドが2016年末からの政治・金融の混乱の影響が懸念されることから、前回予想を下回る見通しです。
- その他地域に含まれるエジプトでは、生体情報モニタ、除細動器の大口商談を受注していますが、2017年1月に売上計上の予定です。

8) 通期業績見通し 修正のポイント

売上高 (前回予想から 25億円減)	国内売上高 (同23億円減)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学、官公立病院市場において期末の大口商談が前期よりも少なく、下期に入り予算の抑制・延期が見られる ・私立病院、診療所市場は好調に推移 ・消耗品・保守サービス事業に注力
	海外売上高 (同2億円減)	<ul style="list-style-type: none"> ・米州は概ね計画どおりの見通し ・欧州ではドイツの販売回復が弱く、アジア州では韓国、インドで政治・金融の混乱の影響 ・その他地域ではエジプトでの大口商談を第4四半期に売上予定 ・為替レート的前提を円安方向に見直し (1ドル:104円⇒109円、1ユーロ:116円⇒119円)
営業利益 (同15億円減)	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高が前回予想を下回る見込みのため、下方修正 ・コストダウンの推進、経費管理の強化により、収益改善に努める ・人員増強などの投資は業績動向を勘案しつつ継続 	
経常利益 (前回予想と変わらず)	<ul style="list-style-type: none"> ・第3四半期以降、為替差損益が差益に転じる 	
親会社株主に帰属する 当期純利益 (同4億円減)	<ul style="list-style-type: none"> ・第4四半期に事業所移転に係る費用等の特別損失を計上予定 	

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

8

- 売上高が前回予想を下回る見通しのため、営業利益は155億円に修正しました。
- 開発から生産に至るまでのコストダウンに努めるとともに、グループ全体での経費管理を強化し、販管費の伸びを抑制してまいります。一方で、人員増強など、将来の成長に必要な投資は業績動向を勘案しつつ、継続します。通期の粗利率は前期並みかやや低下する見通しです。
- 経常利益は、為替差益の計上により、前回予想と変わらず160億円の見通しです。
- 純利益は、第4四半期に特別損失の計上を見込んでいることから、103億円に見直しました。
- 売上、利益ともに少しでも上乗せできるよう、努めてまいります。

[参考]商品群別売上高見通し

(単位:百万円)

	2016/3 実績	2017/3 予想		増減率 (%)	
		期初	11月4日 修正		2月1日 修正
生体計測機器	39,218	40,800	39,600	39,500	0.7
生体情報モニタ	54,823	59,250	57,900	56,850	3.7
治療機器	30,611	32,600	30,700	29,900	△ 2.3
その他	40,868	42,350	42,300	41,750	2.2
売上高合計	165,522	175,000	170,500	168,000	1.5
(ご参考)					
消耗品・保守サービス	67,684	72,400	71,900	71,700	5.9

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

9

- 商品群別の売上高見通しについては、ご覧のとおりです。
- 国内は、生体情報モニタと、AEDを含む治療機器などを引き下げています。
- 海外は、AEDを含む治療機器、検体検査装置を含むその他商品群を引き下げています。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】 経営戦略部
【連絡先】 TEL03-5996-8003